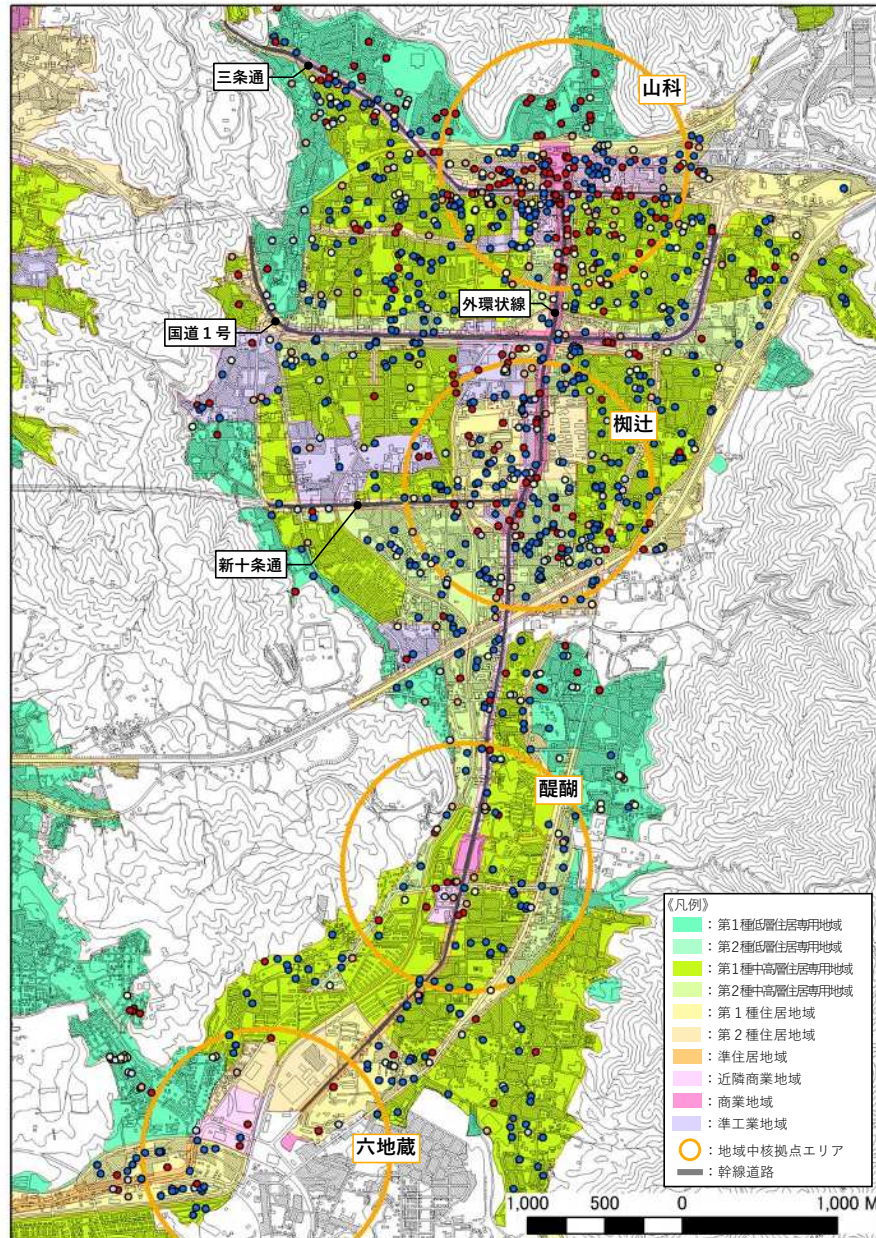


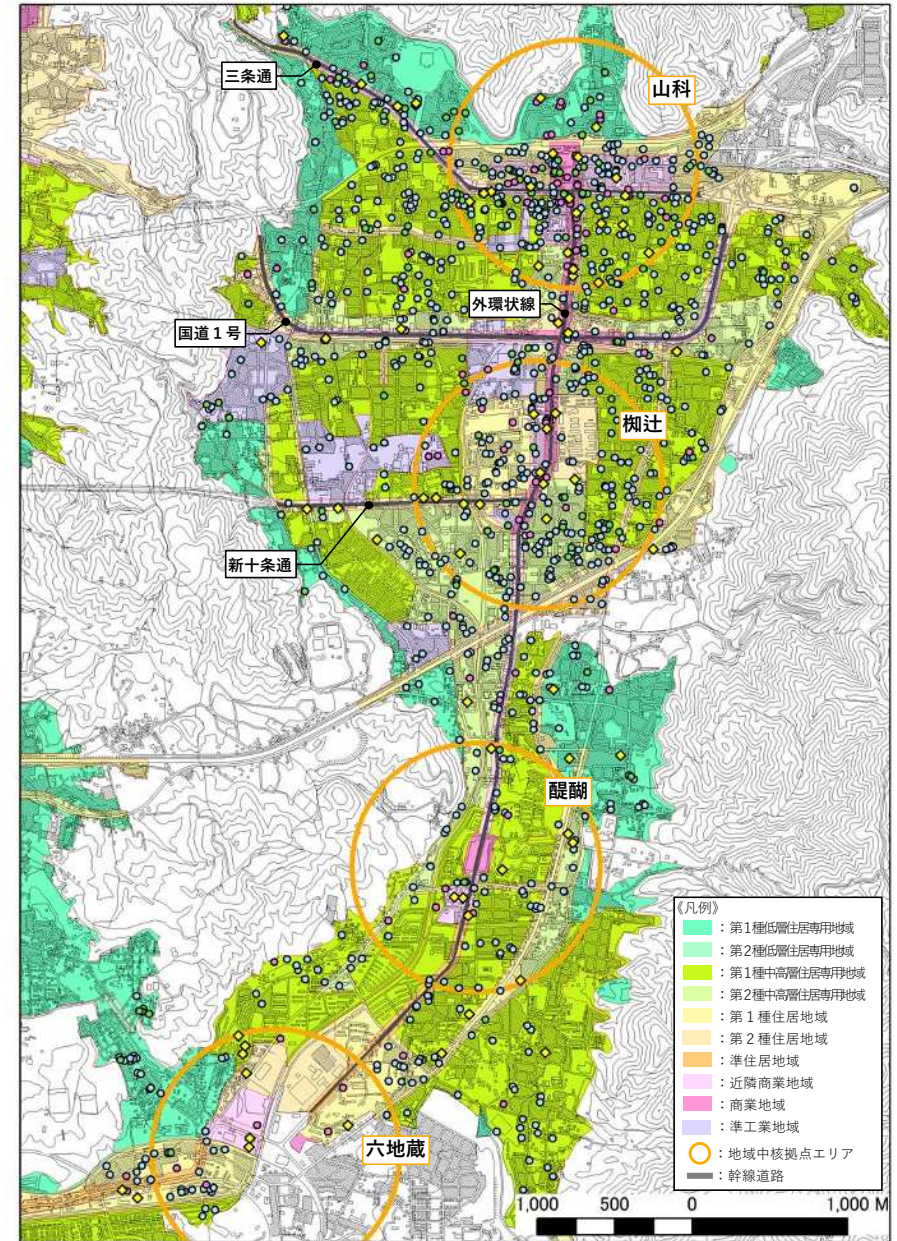
東部地域における土地利用の状況（共同住宅）

○本来都市機能の集積を図るべき駅周辺や幹線沿道のエリアにおいても、「指定容積率に対する使用容積率の割合」が低い建物が目立つ。

■「指定容積率に対する使用容積率の割合」で見た共同住宅の分布状況



■共同住宅における容積率と高さの使用状況

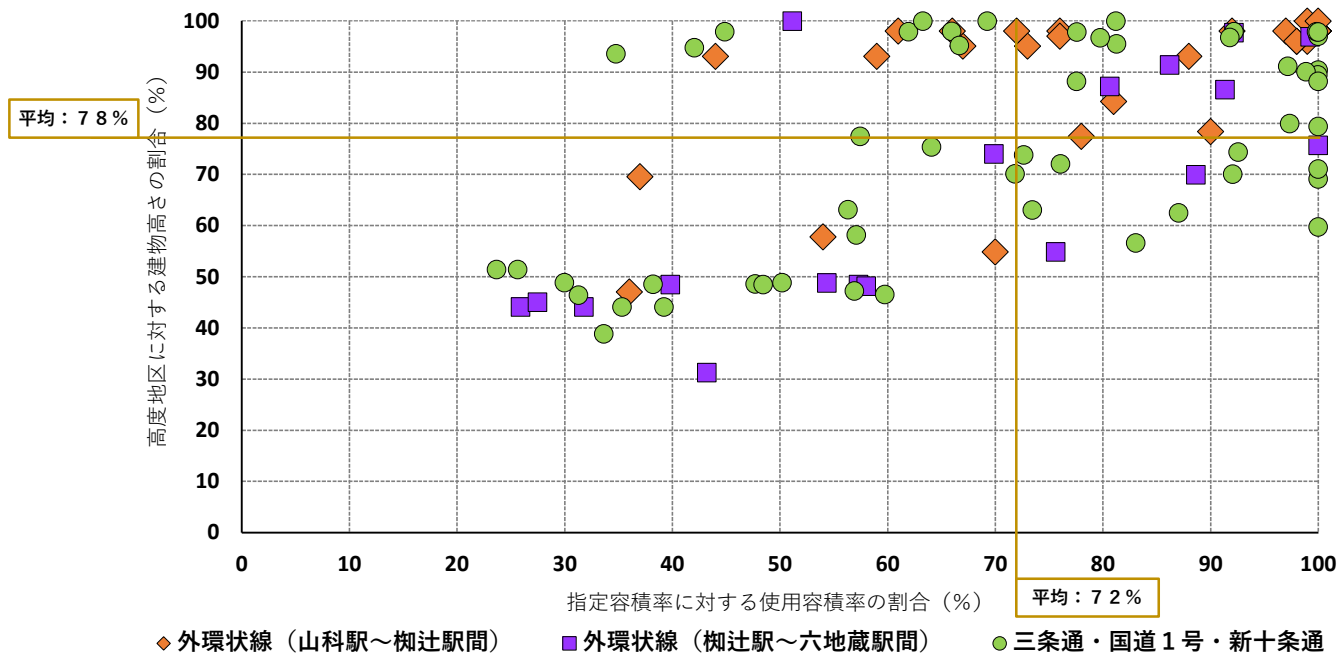


※1990（平成2）年以降の建築確認申請の情報を基に本市作成

各幹線沿道エリアにおける土地利用の状況（共同住宅）

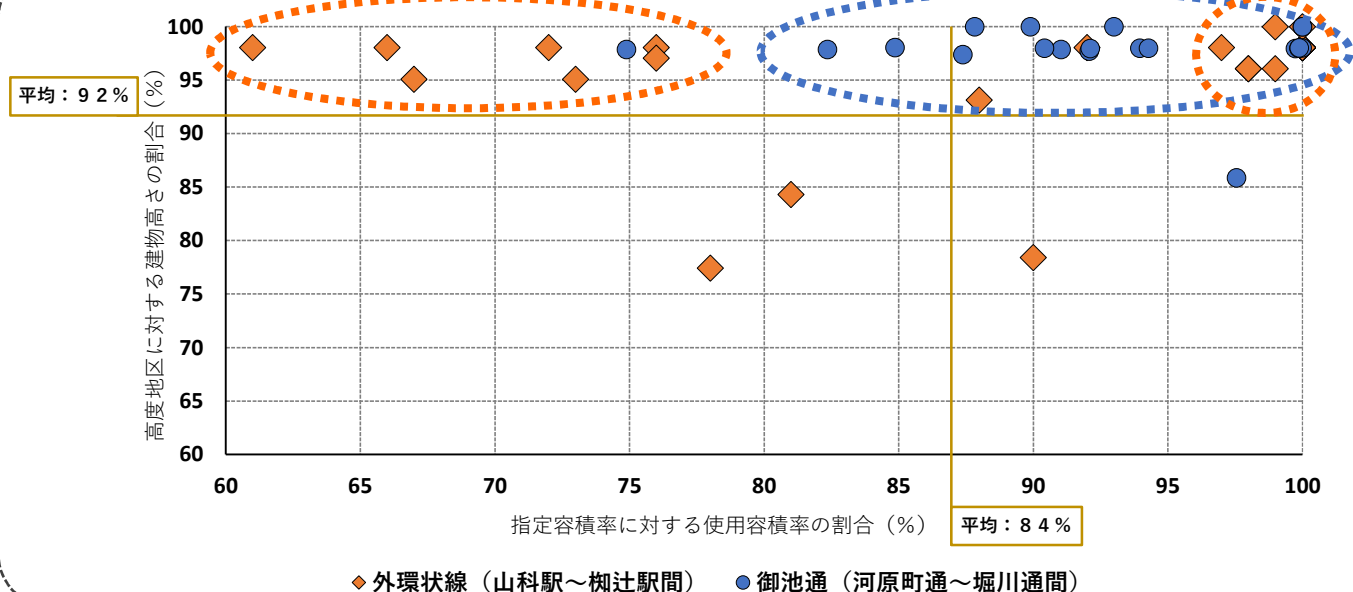
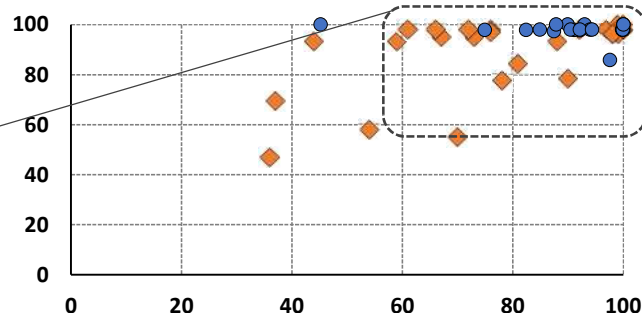
■東部地域における各幹線沿道エリア

○各幹線沿道エリアともに、容積率と高さの使い方にばらつきがある。



■外環状線（山科駅～榑辻駅間）・御池通

○両幹線沿道のエリアともに、建物高さの使用割合は高いが、外環状線は一部を除き容積率の使用割合が低い建物が多い。



<参考> 両幹線沿道エリアの主な都市計画

- ・御池通（河原町通～堀川通）：商業地域，容積率700%，31m第1種高度地区
- ・外環状線（山科駅～榑辻駅間）：商業地域，容積率600%，31m第1種高度地区

※1990（平成2）年以降の建築確認申請の情報を基に本市作成